# 上尾市立東町小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

## 学校教育目標

自ら学ぶ意欲をもち、心豊かなたくましい東っこ
～進んで学びよく考える子、きまりを守り助け合う子、
最後までがんばる子、明るい元気な子～

## 学校課題研究主題

「学習や生活の見通しをもち、
粘り強く取り組む児童の育成」
～確かな見通しを生む環境づくりと、
互いを高め合う対話的活動の充実を通して～

## 学力・学習状況調査の結果

| R8 全国学力・学習状況調査 | R8 埼玉県学力・学習状況調査 | R7 上尾市立小・中学校学力調査 |
|---|---|---|
| ・全体の傾向として、国語は県平均を1ポイント上回るが、算数が3ポイント下回る。特に算数の思考力や表現力に課題がある。<br>・国語は県平均を1ポイント上回った。文章を読み解く力や記述力に成果が見られるが、話す・聞く能力に課題がある。<br>・算数は測定の領域で県平均を上回るが、全体では3ポイント下回った。特に「変化と関係」の領域や思考力に課題がある。 | ・国語では、6年生が県平均を上回り（+1.4pt）、4年生はほぼ同水準（−0.1pt）となった一方、5年生は県平均を 0.8pt下回った。課題となる領域として、4年生は「情報の扱い方、我が国の言語文化」、5年生は「読むこと」、6年生は「言葉の特徴や使い方」が挙げられる。<br>・算数では、全学年で県平均を下回る結果となり（4年：−0.1pt、5年：−3.3pt、6年：−1.2pt）、特に5・6年生の伸びに課題がみられる。課題となる領域として、4年生は「数と計算」、5年生は「データの活用」、6年生は「図形」が挙げられる。 | ・国語は全学年で全国平均の前後を維持しており、特に5年生は国語全体で全国平均を上回る好結果となった。また、3年生と5年生は算数で全国平均を下回っているものの、4年生は国語の「思考・判断・表現」で全国平均を大きく上回る成果を出している。<br>・算数の「基礎」は多くの学年で目標値に届かず、2・3年生では「活用」でさらに目標との差が広がる結果となったが、4年生の「活用」では市町村平均を上回るなどの成果も見られる。 |

## 本校で身に付けさせる学力

| 知識及び技能の習得 | 思考力・判断力・表現力等の育成 | 学びに向かう力・人間性等の涵養 |
|---|---|---|
| ①読み・書き・計算などの基礎学力や、言語能力育成のための語彙力<br>②学習内容を他教科や実生活と関連付けたり、既習の学習をもとにして新たな知識を学習する力 | ③「読むこと」「話すこと・聞くこと」の理解力<br>④自分の考えを、理由や根拠を裏付けて記述・発表したり、既習事項から考えを広げて、表現する力 | ⑤進んで考えたり、粘り強く課題に取り組んだりする力<br>⑥筋道を立てた思考に基づき、見通しとふり返りを通して自己の学習を調整し、他者との協働を通じて学びを深め、自己のキャリア形成に活かす力 |

## 学力向上のための授業改善

| 知識及び技能の習得 | 思考力・判断力・表現力等の育成 | 学びに向かう力・人間性等の涵養 |
|---|---|---|
| ○豊かな言語能力を育成するため、読書活動を推進する。関連読書や意味調べなどを通して語彙力を高める。<br>○既習事項の知識を使いながら解決する課題の設定をする。 | ○順序立てて課題を理解できるよう、授業の流れが明確化された学習過程を構築する。<br>○様々な自力解決の方法を提示し、児童自身が選択して、自分の考えに根拠をもって表現できるようにする。 | ○様々な友達と関わりながら学習を進め、自己や他者の意見を尊重し、自己有用感を高める。<br>○最後まで、あきらめず課題に向き合えるよう、支援の手立てを用意し、自分の考えをもてる授業を展開する。 |

| 本校の特色ある取組 | 家庭教育との連携 |
|---|---|
| ○道徳の時間の充実<br>○学習形態の工夫と組織づくり<br>○理科専科による高学年の授業<br>○毎週水曜日の昼休みの時間「あずまッピータイム」<br>○全学年での一部教科担任制の実施 | ○学校の教育活動の見える化<br>○家庭学習の取組<br>○年間2回の授業参観日と公開日、道徳・外国語授業の公開週間の実施 |